

日本道徳教育方法学会第27回研究発表大会プログラム

期日：2021年6月13日（日）

オンライン開催（Web 会議システムを用いた「同時双方向形式」）

発信地：麗澤大学

主催：日本道徳教育方法学会

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員とも。事前申込（5月24日まで）が必要です。

参加申込方法の詳細については日本道徳教育方法学会公式ホームページ「大会案内」をご覧ください。

タイムスケジュール

6月13日（日）

9:00	12:30	13:00	14:00	17:00
自由課題研究発表 分科会Ⅰ～分科会Ⅴ	<昼食>	総会	シンポジウム&課題研究	

自由課題研究発表（発表25分・質疑20分）

分科会Ⅰ 司会：上地 完治（琉球大学）

9:00～9:45 ①「道徳科の授業と子どものための哲学的対話（p4c）との関連を図った学習システム」の構築をめざして

～主体的に学び続ける道徳教育カリキュラムマネジメントを通して～

古見 豪基（麗澤大学大学院【院】／埼玉県和光市立第五小学校）

9:55～10:40 ② 道徳科における「わたし」の表出に向けて

三宅 浩司（松山市立久枝小学校）

10:50～11:35 ③ がん教育におけるカリキュラム・マネジメントと道徳科の教材の試みと検討

天野 幸輔（名古屋学院大学）

11:45～12:30 ④ 日本の道徳教育がシティズンシップ教育と接続するための課題

ー日本学術会議報告の「よりよい道徳教育のための四つの展望」から

東風 安生（横浜商科大学）

分科会Ⅱ 司会：毛内 嘉威（秋田公立美術大学）

9:00～9:45 ① 道徳科の終末において文字を書くことの一考察

ーリテラシーとオラリティーの共鳴ー

竹本 晋也（兵庫県西脇市立重春小学校）

9:55～10:40 ② 「特別の教科 道徳」の史的 position 付けに関する基礎的研究ー教育実践史の視点からー

高口 涼（静岡県富士市立広見小学校）

10:50～11:35 ③ 道徳科における段階的指導法の研究

～「展開整理型授業」と「即興議論型授業」の研究を通して～

丸岡 慎弥（大阪市立香簀小学校）

11:45～12:30 ④ 中学校の道徳授業における「ふりかえり」の分析的研究

ー学級担任と担任以外の道徳授業の比較からー

田村 博久（上越教育大学）

分科会Ⅲ 司会：柴原 弘志（京都産業大学）

- 9：00～ 9：45 ① 地域の先人を題材とした教材を活用し、道徳性を育成する道徳科指導のあり方
～新しい佐倉学道徳の再構築を目指して～

小林 浩之（千葉県佐倉市立西志津小学校）

- 9：55～10：40 ② 郷土を愛する心を育成する道徳の授業づくり

木下 美紀（福岡県宗像市立玄海東小学校）

- 10：50～11：35 ③ 道徳教育（道徳科）を通して多文化共生教育を考える
－『外国人児童生徒等のための受入れハンドブック～指導・支援を充実させる
ために～』を手掛かりに－

今川 美幸（兵庫県教育委員会）

- 11：45～12：30 ④ Society5.0 と SDGs を生かした道徳科の授業
～コロナ禍の中の道徳科の授業から～

柴田 八重子（愛知淑徳大学【非】）

分科会Ⅳ 司会：澤田 浩一（國學院大學）

- 9：55～10：40 ① 生徒が自ら道徳的価値と向き合うために
～教材のテーマ（人間の魅力）を考える・「旗」（友情、信頼）の実践～

松原 弘（大阪府和泉市立郷荘中学校）

- 10：50～11：35 ② 道徳教材に人物（偉人）を取り扱う意義と課題に関する一考察Ⅲ

淀澤 勝治（兵庫教育大学）

- 11：45～12：30 ③ 「そもそも・・・」という「問い」が誘う道徳科授業教材の分析の視点
齋藤 嘉則（東京学芸大学）

分科会Ⅴ 司会：服部 敬一（大阪成蹊大学）

- 9：00～ 9：45 ① 道徳授業におけるICTの活用によって、子供の何がどう変わるのか
～変えていくこと、変わらずに大切にしていくことを明らかにしながら～

鈴木 賢一（愛知県あま市立七宝小学校）

- 9：55～10：40 ② 深い学びの実現を目指す中学校道徳授業実践について
－“考え議論する道徳”に基づく、授業改善を通して－

高橋 純一（環太平洋大学）

- 10：50～11：35 ③ 道徳科の授業において授業者が大切にしたいこと
－心理的安全性について考える－

谷口 雄一（摂南大学）

テーマ：ICT を活用した道徳授業の可能性 ― 質の高い討議・協働活動に向けて ―

企画趣旨

2020 年のコロナ禍によって、学校現場は大きな危機に直面した。3 月 2 日からの臨時休校は約 3 ヶ月に及び、多くの児童生徒が自宅学習を強いられた。「3 密」や「ソーシャルディスタンス」という言葉も、日常的に馴染みのある言葉になった。さらに、こうした状況下で、従来の「対面授業」が休校期間中は行われず、動画配信やオンデマンドの授業も推奨された。このように令和の道徳教育が「特別の教科 道徳」の全面実施として幕開けしたにもかかわらず、「考え、議論する道徳」の趣旨が必ずしも実現していない状況がある。

文部科学省は、数年来 Society 5.0 の到来を見据えた学校 Ver.3.0 のあり方を提言してきたが（GIGA スクール構想）、コロナ禍の中でその動きが急激に加速している。今後「一人一台端末」の導入と学校でのネット環境の充実等の整備が進み、個々の児童生徒の「個別最適化された学び」が進むことが予想される。こうした＜学び＞の方向性は、個々の子どもが「能動的な学び手」（アクティブ・ラーナー）になることを意味している。

このような状況において、学校教育には、個別最適化された学びに進んでいく個々の子どもたちに、多様な実体験や他者との対話、協働活動を通した様々な学習機会をどのように提供するべきなのかが求められている。こうした学習機会の確保には、「考え、議論する道徳」が、ますます重要な役割を果たすことが想定できるのではないだろうか。

教育現場においては、まだコロナ禍の中で、ICT 活用をあくまでも対面授業の「代替」と見なす傾向も看取できるが、それ以上に、ICT を活用しながら質の高い討議・協働活動の可能性を考えていくことは道徳教育にとって重要な課題であると思われる。

今回はシンポジウムと課題研究を一つのテーマで統一し、大学研究者と小・中学校及び高校の実践家による活発な議論を行う。

◇ 趣旨説明 小川 哲哉（茨城大学）

◇ シンポジウム 登壇者

道徳教育研究の視点から

林 泰成（上越教育大学）

カリキュラム・マネジメントと ICT 活用の視点から

村川 雅弘（甲南女子大学）

◇ 課題研究 登壇者

義務教育（小学校）の立場から

野瀬 めぐみ（滋賀県草津市立常盤小学校）

義務教育（中学校）の立場から

佐々木 篤史（弘前大学教育学部附属中学校）

高校教育の立場から

高橋 麻理（茨城県立茎崎高等学校）

◇ 司会 島 恒生（畿央大学）

渡邊 真魚（日本大学）